

道路事業の再評価資料

〔国道8号 西高岡拡幅〕

平成23年9月

北陸地方整備局

目 次

1. 事業の概要	1
1) 事業の目的	1
2) 事業の概要	2
2. 現在に至る経緯等	3
1) 事業の経緯	3
2) 事業の進捗状況	3
3) 中川橋の老朽状況	4
4) 今後の事業展開	4
3. 事業計画の見直し	5
4. 当該道路の役割・効果	6
1) 3 便益に係る整備効果	6
① 走行時間の短縮	8
② 渋滞損失時間の減少	9
③ 交通事故件数の減少	10
2) その他の効果	11
① 老朽橋梁の架け替え	11
② 歩道不連続区間解消による通学児童の安全性の向上	12
③ 緊急輸送道路としての役割	13
④ 路線バスの利便性向上	14
⑤ 国際拠点港湾伏木富山港へのアクセス向上	15
⑥ 日常活動圏中心都市（高岡市）へのアクセス向上	16
⑦ 第三次救急医療施設への命の道としてのアクセス向上	17
⑧ 土地区画整理事業など周辺地域開発の支援	18
5. 費用対効果	19
6. 対応方針（原案）	20
客観的評価指標抽出資料	21
費用対効果算出資料	25

1. 事業の概要

1) 事業の目的

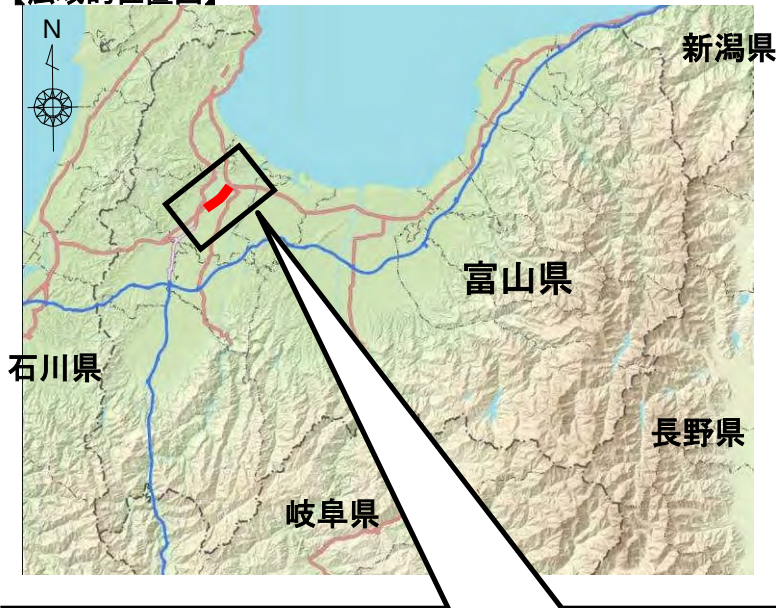
当事業は、

- 交通渋滞の解消
- 幹線ネットワークの強化 など

とやまけん たかおかし よつや たかおかし たての

を目的とし、国道8号の富山県高岡市四屋～高岡市立野間（延長6.0km）について拡幅整備を行うものである。

【広域的位置図】



写真：国道8号 中川橋より
富山市方向を望む

※平成22年11月撮影



2) 事業の概要

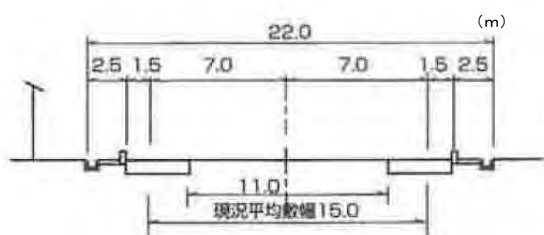
- 事業名：国道8号 ^{にしたかおか}西高岡拡幅
- 起終点：(起) ^{とやまけん}富山県 ^{たかおかし}高岡市 ^{よつや}四屋
(終) ^{とやまけん}富山県 ^{たかおかし}高岡市 ^{たての}立野
- 延長・規格：L=6.0km (^{よつや}四屋～ ^{ろっけ}六家 L=3.7km・4種1級・60km/h
 ^{ろっけ}六家～ ^{たての}立野 L=2.3km・3種1級・80km/h)
W=22m (^{よつや}四屋～ ^{ろっけ}六家) 28m (^{ろっけ}六家～ ^{たての}立野)
- 都市計画決定：昭和48年度、昭和56年度
- 事業化：昭和52年度
- 用地着手：昭和54年度
- 工事着手：昭和55年度
- 全体事業費：232億円
- 平成23年度末までの投資額(予定)：229億円(進捗率約99%)

【路線図】

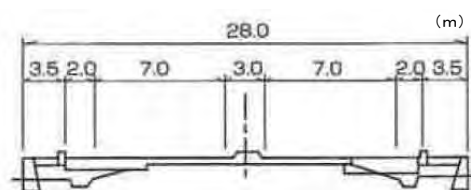


【横断図】

■ 標準横断図(四屋～六家)



■ 標準横断図(六家～立野)



1) 事業の経緯

2) 事業の進捗状況

※金額は税込み



3) 中川橋の老朽状況

事業区間内、高岡市内島地先には、老朽化の著しい中川橋が架かっている。
中川橋は、平成18年の橋梁点検の結果、各部位にひび割れや剥離・鉄筋露
出などがみられ、早急な対策が必要な状況となっている。

【中川橋の状況】



梁部の剥離・鉄筋露出

【中川橋の諸元・H18橋梁点検結果】

橋梁名	新中川橋
有効幅員	$W = 0.75 + 3.5 + 3.5 + 0.75 = 8.5\text{m}$
架設竣工年	昭和28年（竣工後58年経過）
適用示方書	昭和14年
H18橋梁点検結果	主桁及び柱部・壁部にうき、ひび割れ、剥離・鉄筋露出、梁部に剥離・鉄筋露出を確認。 落橋防止システム及び防護柵は腐食、防食機能の劣化が進行。 地覆にうき、ひび割れ、剥離・鉄筋露出、変形・欠損を確認。 舗装に異常が発生。

4) 今後の事業展開

現在、高岡市内島地先、老朽化の著しい中川橋の架け替え、西高岡駅口交差点までの拡幅工事（L=300m）を推進中であり、平成24年度の中川橋、拡幅の供用を目指し事業を推進する。

また、ＪＲ西高岡駅へのアクセス道路と交差する西高岡駅口交差点までの拡幅整備により、当面整備を急ぐ区間の４車線化が終了することから事業を休止する。残る区間の整備時期については、今後の交通状況の変化などを踏まえ検討する。



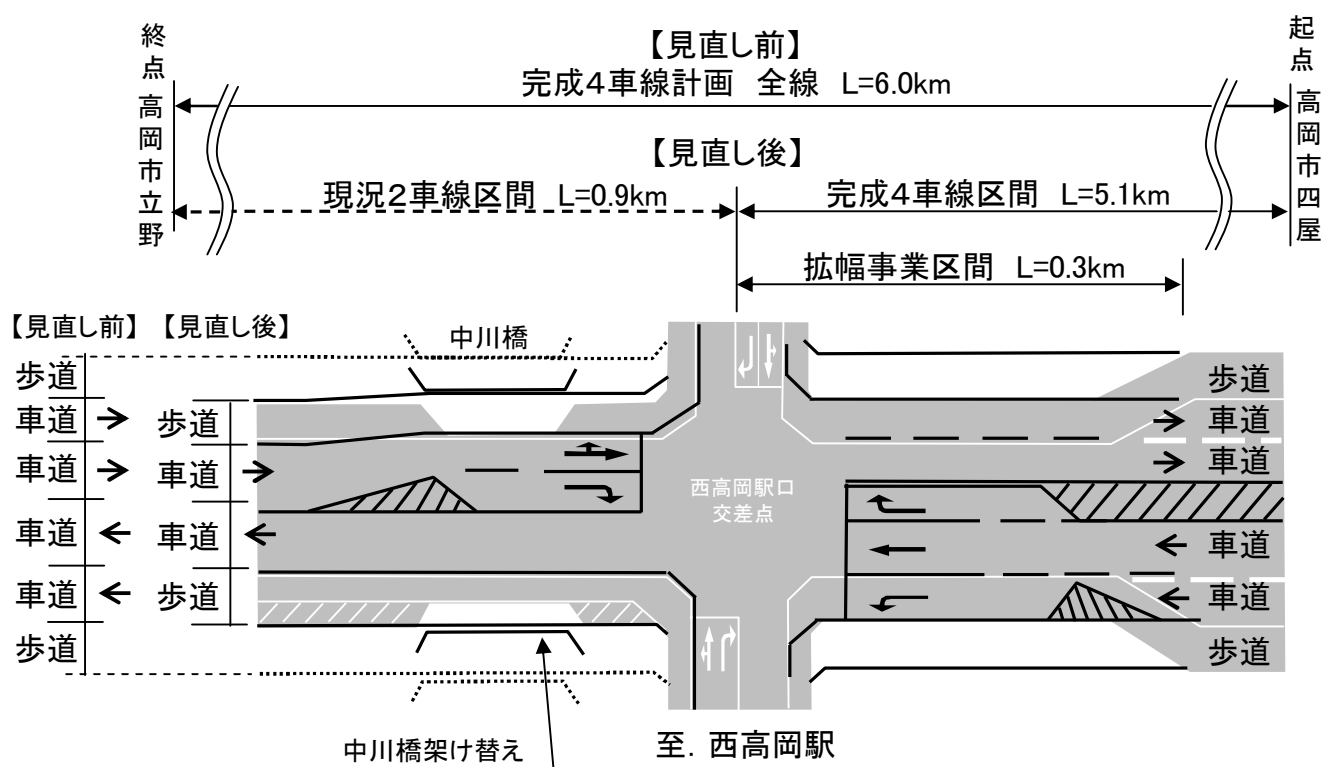
3. 事業内容の見直し

【コスト増額内容：+22.9億円】

- ①道の駅「万葉の里 高岡」の整備 【+15.0億円】
 - ・ 駐車場、トイレ、道路情報提供施設を整備済
- ②立体交差（地下横断道路）の追加 【+6.4億円】
 - ・ 交差する市道について、道路管理者（市）や地元との協議により、近接交差点の集約計画から、国道横断機能を確認する地下横断道路（1箇所）を追加
- ③中川橋の施工に伴う施工方法の変更 【+1.5億円】
 - ・ 仮設工（土留め矢板）の施工に際し、現地地盤の状況から、作業の振動が基準値を超えたため、低振動型の工法に変更【+0.8億円】
 - ・ 既設橋の取り壊し工において、騒音・振動の影響及び地元との協議により、低騒音・低振動型の工法に変更【+0.7億円】

【コスト減額内容：-20.0億円】

- ①事業内容の見直し 【-20.0億円】
 - ・ 全線（L=6.0km）の完成四車線計画のうち、当面、整備を急ぐ4車線区間（L=5.1km）と、中川橋の架け替えに見直し



○見直し後の事業費

平成23年度末(予定)

	全体	執行済額	進捗率	残事業費
事業費	235億円	229億円	97%	6億円
うち用地費・補償費	127億円	127億円	99%	0.2億円

※金額は税込み

4. 当該道路の役割・効果（詳細は8ページ以降に記載）

1) 3 便益に係る整備効果

① 走行時間の短縮（8, 9ページ）

○西高岡拡幅の整備により、円滑な走行環境が確保され、走行時間が約4分短縮する。

○西高岡拡幅の整備により、円滑な走行環境が確保され、損失時間が年間約176万人時間削減される。

○西高岡拡幅の整備により、走行時間短縮による年間21億円の便益が発生する。

○供用後50年間の総便益は、割引率4%などを考慮すると506億円と算出される。

【走行時間短縮便益】

＝整備前総走行時間費用－整備後総走行時間費用 ※供用開始年次の便益

＝21（億円/年）※

総走行時間費用＝ $\sum \sum$ [路線別車種別交通量(台/日) × 路線別走行時間(分)
× 車種別時間価値原単位(円/台・分)] × 365(日/年)

割引率等を考慮

506億円（うち残事業では17億円）

② 走行経費の減少

○西高岡拡幅の整備により、走行経費減少による年間1.4億円の便益が発生する。

○供用後50年間の総便益は、割引率4%などを考慮すると26億円と算出される。

【走行経費減少便益】

＝整備前総走行経費－整備後総走行経費

※供用開始年次の便益

＝1.4（億円/年）※

総走行経費＝ $\sum \sum$ [路線別車種別交通量(台/日) × 路線別延長(km)
× 車種別走行経費原単位(円/台・km)] × 365(日/年)

割引率等を考慮

26億円（うち残事業では0.68億円）

③ 交通事故の減少（10ページ）

○西高岡拡幅の整備により、年間事故件数が6件減少し、年間0.4億円の便益が発生する。

○供用後50年間の総便益は、割引率4%などを考慮すると3.4億円と算出される。

【交通事故減少便益】

＝整備前の交通事故による社会的損失－整備後の交通事故による社会的損失

※供用開始年次の便益

＝0.4（億円/年）※

割引率等を考慮

3.4億円（うち残事業では0.23億円）

2) その他の効果

① 老朽橋梁の架け替え(11ページ)

- 残事業区間には、架橋から58年が経過し老朽化が著しく、耐震上も問題のある中川橋が架かっている。
- 中川橋の掛け替えにより、道路の安全性や信頼性の向上が期待される。

② 歩道不連続区間解消による通学児童の安全性の向上(12ページ)

- 残事業区間に架かる中川橋は、片側(上り線)で歩道未設置である。
- 橋の前後区間は通学路に指定されており、通学児童が歩道未設置区間を通行してしまう恐れがある。
- 中川橋の掛け替えにより、通学児童をはじめとする歩行者の安全性・利便性が向上する。

③ 緊急輸送道路としての役割(13ページ)

- 事業区間を含む国道8号は、富山県地域防災計画において第1次緊急通行確保路線に位置づけられている。
- 西高岡拡幅の整備により、併走する能越自動車道などと相互に機能を補完し、災害時における緊急通行確保路線の信頼性の向上が期待される。
- また、新潟県中越地震などを教訓に防災機能を備え、平成18年4月に開業した道の駅「万葉の里高岡」へのアクセス性向上が期待される。

④ 路線バスの利便性向上(14ページ)

- 高岡市では、人口1人あたりの路線バスの利用者数は減少傾向にあるものの県平均より多く、路線バスが移動手段として多く選択され市民の重要な足となっていると言える。
- 事業区間においては路線バスが5路線、1日平均50便運行。
- 西高岡拡幅の整備によりピーク時の混雑が緩和、路線バスの定時性が向上、利用者の利便性の向上が期待される。

⑤ 国際拠点港湾伏木富山港へのアクセス向上(15ページ)

- 事業区間周辺には、高岡市の主要産業であり、原材料のほとんどを輸入に頼るアルミ製品関連の工場が数多く立地している。
- 伏木税関支所管内(伏木富山港伏木地区他)における平成22年のアルミの輸入額は、総額の約3割を占めており、後背地となる高岡市街の工場群とのつながりが伺える。
- 西高岡拡幅の整備により、事業区間周辺の工場と伏木富山港とのアクセス性が向上し、物流の効率化が期待される。

⑥ 日常活動圏中心都市(高岡市)へのアクセス向上(16ページ)

- 高岡広域圏(旧高岡市、旧福岡町、氷見市、小矢部市)の中心都市は高岡市であり、旧福岡町と旧高岡市間の通勤通学者数は当該事業の部分供用前の昭和55年から増加している。
- 西高岡拡幅の整備により、高岡市と隣接市町村間のアクセス性が向上し、日常活動の利便性向上が期待される。

⑦ 第三次救急医療施設への命の道としてのアクセス向上(17ページ)

- 厚生連高岡病院は、第三次救急医療施設(救急救命センター等)に指定されており、県西部における高度な救急医療を24時間提供している。
- 高岡市では、急病による救急搬送件数が概ね増加傾向にあり、迅速な救急救命活動が必要である。
- 西高岡拡幅の整備により、福岡消防署から厚生連高岡病院への搬送時間が短縮し、救命率の向上に寄与することが期待される。

⑧ 土地区画整理事業など周辺地域開発の支援(18ページ)

- 事業区間沿道・周辺では、事業実施中に土地区画整理事業が施行された地区や大規模小売店舗が多く存在。
- 当該事業工事着手時より交通量は増加、旅行速度は向上しており、地域開発により増加する交通量を捌き、かつ交通量増加による更なる地域開発の一助となったと推察される。
- 残事業区間の整備により、更なる地域開発の支援、利用者の利便性向上が期待される。

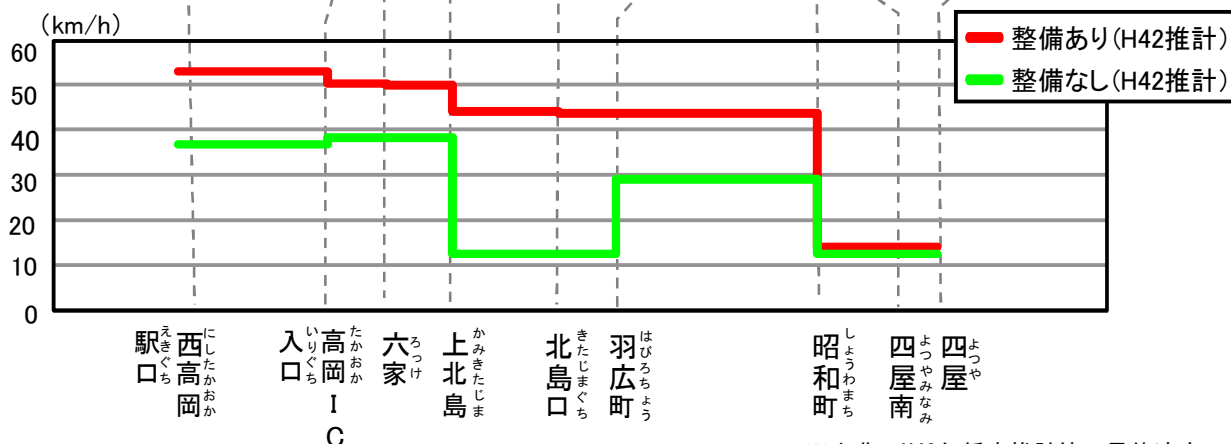
1) 3便益に係る整備効果

① 走行時間の短縮

- 西高岡拡幅の整備により、区間全体で混雑時の旅行速度が向上、円滑な走行環境が確保される。
- 混雑時における事業区間の平均旅行速度は約7 km/hの向上、所要時間は約4分の短縮が見込まれる。

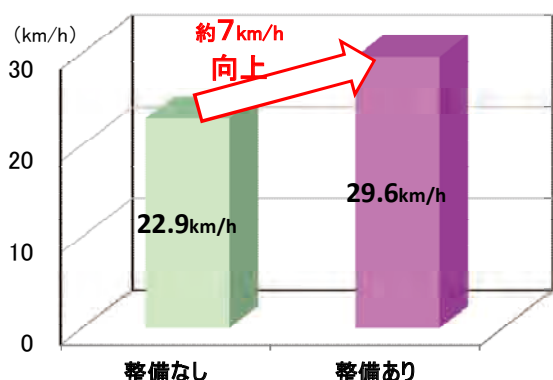


【拡幅区間の混雑時旅行速度】



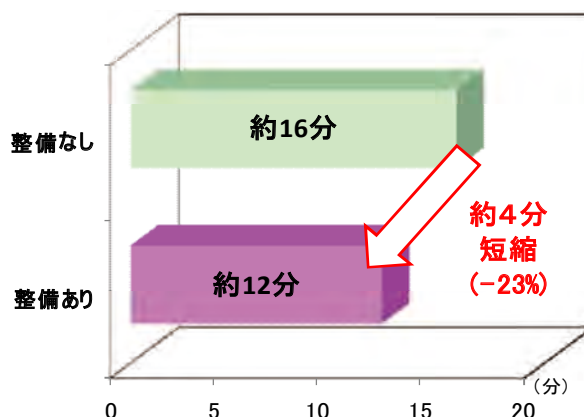
※出典：H42年将来推計値の最終速度

【事業区間の旅行速度 (区間平均)】



※出典：H42年将来推計値の最終速度を用いて算出

【事業区間の所要時間】



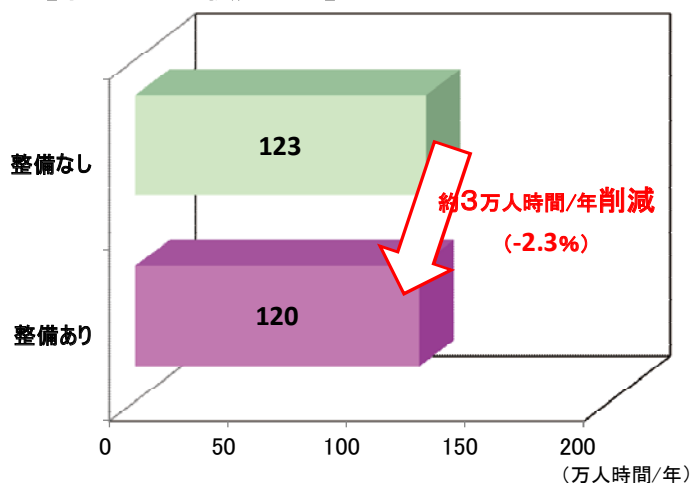
※出典：H42年将来推計値の最終速度を用いて算出

② 渋滞損失時間の減少

- 西高岡拡幅の整備により事業区間の混雑が緩和、円滑な走行環境の確保が期待される。
- 事業区間では約3万人時間/年、全体（便益算定範囲）では約176万人時間/年の損失時間の削減が見込まれる。

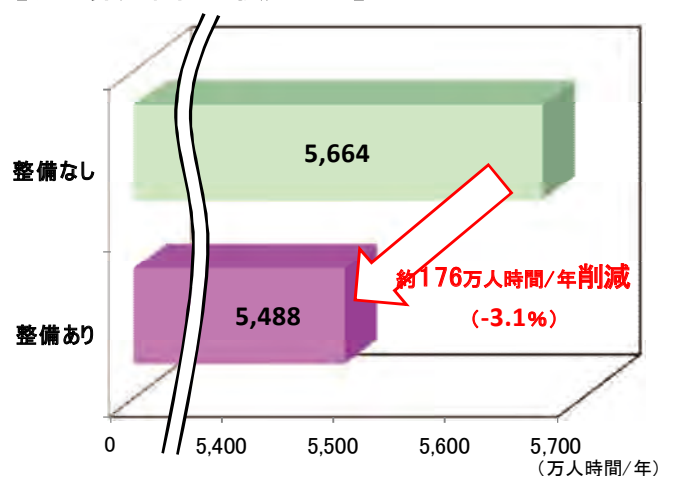


【事業区間の損失時間】



※ 出典：H42年将来推計値の最終速度を用いて算出

【便益算定範囲の損失時間】



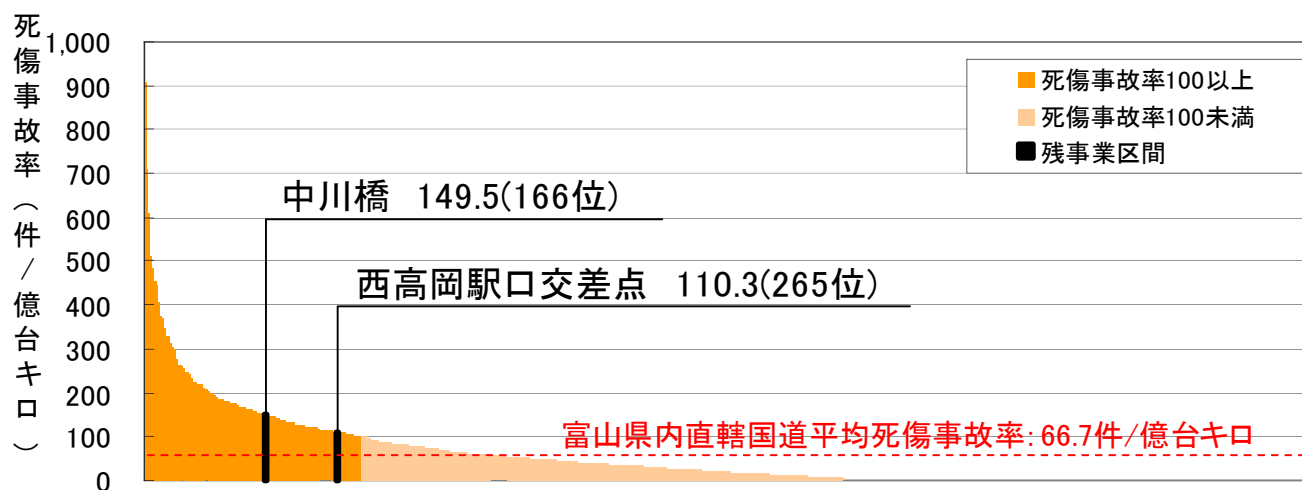
※ 出典：H42年将来推計値の最終速度を用いて算出

③ 交通事故件数の減少

- 西高岡拡幅の整備により現道、及び周辺道路の事故が減少、安全な走行環境の確保が期待される。
- 事業により、全体（便益算定範囲）で死傷事故約6件/年の削減が見込まれる。

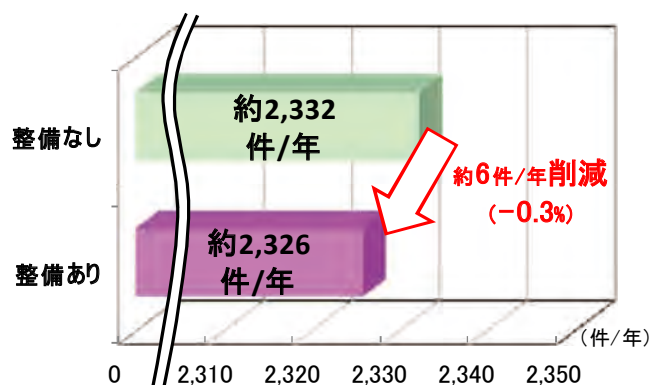


【富山県内直轄国道の死傷事故率（H18～H21）】



※ITARDAデータ

【便益算定範囲の死傷事故件数】



※H42年将来推計値

【歩道未設置区間の状況】



写真：国道8号 中川橋
（富山市方向を望む）

※平成23年4月撮影

2) その他の効果

① 老朽橋梁の架け替え

- 残事業区間には、架橋から58年が経過し老朽化が著しく、耐震上も問題のある中川橋が架かっている。
- 中川橋の掛け替えにより、道路の安全性や信頼性の向上が期待される。



【中川橋の現況】



【中川橋の損傷状況】



橋脚の変形・欠損



梁部の剥離・鉄筋露出

【中川橋の諸元・H18橋梁点検結果】

橋梁名	新中川橋
橋種型式	単純R C 中実床版橋
橋長	30.0m
有効幅員	$W = 0.75 + 3.5 + 3.5 + 0.75 = 8.5\text{m}$
架設竣工年	昭和28年（竣工後58年経過）
適用示方書	昭和14年
H18橋梁点検結果	主桁及び柱部・壁部にうき、ひび割れ、剥離・鉄筋露出、梁部に剥離・鉄筋露出を確認。 落橋防止システム及び防護柵は腐食、防食機能の劣化が進行。 地覆にうき、ひび割れ、剥離・鉄筋露出、変形・欠損を確認。 舗装に異常が発生。



主桁のひび割れ・コンクリート補強材の損傷



舗装の異常

② 歩道不連続区間解消による通学児童の安全性の向上

- 残事業区間に架かる中川橋は、片側（上り線）で歩道未設置である。
- 橋の前後区間は通学路に指定されており、通学児童が歩道未設置区間を通行してしまう恐れがある。
- 中川橋の掛け替えにより、通学児童をはじめとする歩行者の安全性・利便性が向上する。

【事業区間における歩道設置状況、及び通学路指定状況】

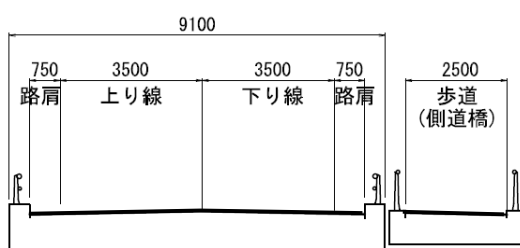


【中川橋の現況】

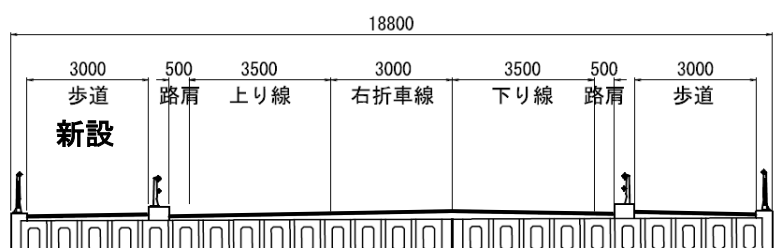


【中川橋標準断面図】

【現況】



【計画】



③ 緊急輸送道路としての役割

- 事業区間を含む国道 8 号は、富山県地域防災計画において第 1 次緊急通行確保路線に位置づけられている。
- 西高岡拡幅の整備により、併走する能越自動車道などと相互に機能を補完し、災害時における緊急通行確保路線の信頼性の向上が期待される。
- また、新潟県中越地震などを教訓に防災機能を備え、平成18年4月に開業した道の駅「万葉の里高岡」へのアクセス性向上が期待される。

【緊急通行確保路線指定状況】



【緊急通行確保路線の定義】

- 第1次緊急通行確保路線
 - ・ 県内外の広域的な輸送に不可欠な、北陸、東海北陸及び能越自動車道、一般国道(指定区間)、一般国道と IC 及び輸送拠点(空港、港湾等)とを結ぶ道路。
- 第2次緊急通行確保路線
 - ・ 第1次とネットワークを構成し、市町村対策本部、警察署、消防署等の市町村の防災活動拠点となる施設を相互に接続する幹線道路。
- 第3次緊急通行確保路線
 - ・ 上記路線を相互に補完する道路。

【道の駅「万葉の里高岡」の防災機能】



駐車場の活用

災害時には、緊急避難場所として駐車場を活用（テント・仮設住宅・緊急物資搬入）

消雪装置の有効利用

消雪用井戸水を手洗水などとして利用するための「濾過装置」の配備

防災備蓄倉庫

停電時の道路休憩施設内、消雪装置、トイレ内の電源を提供できる発電機の配備

防災トイレ

断水時でも利用可能なトイレ

非常時の通信施設の確保

衛生携帯電話、無線 LAN によるインターネット接続

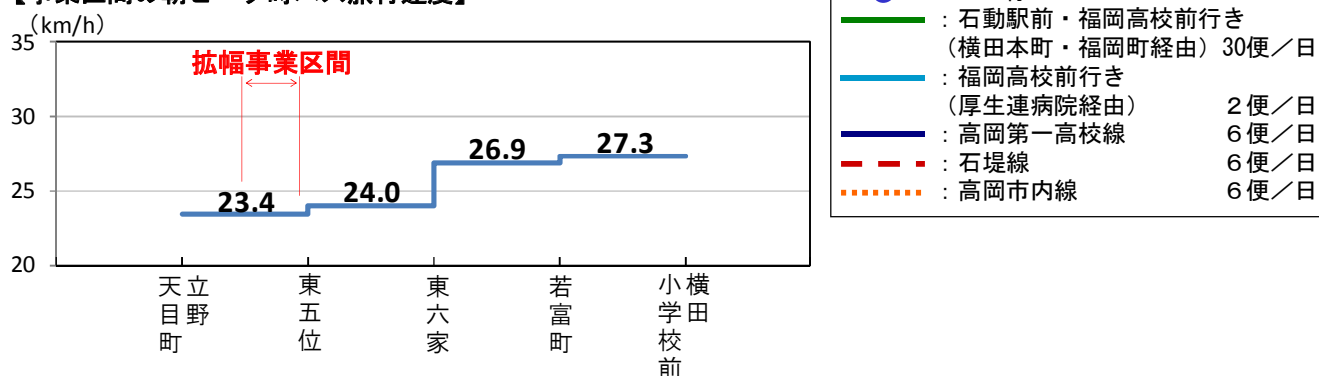
④ 路線バスの利便性向上

- 高岡市では、人口1人あたりの路線バスの利用者数は減少傾向にあるものの県平均より多く、路線バスが移動手段として多く選択され市民の重要な足となっていると言える。
- 事業区間においては路線バスが5路線、1日平均50便運行。
- 西高岡拡幅の整備によりピーク時の混雑が緩和、路線バスの定時性が向上、利用者の利便性の向上が期待される。

【現在のバス路線ルート図】

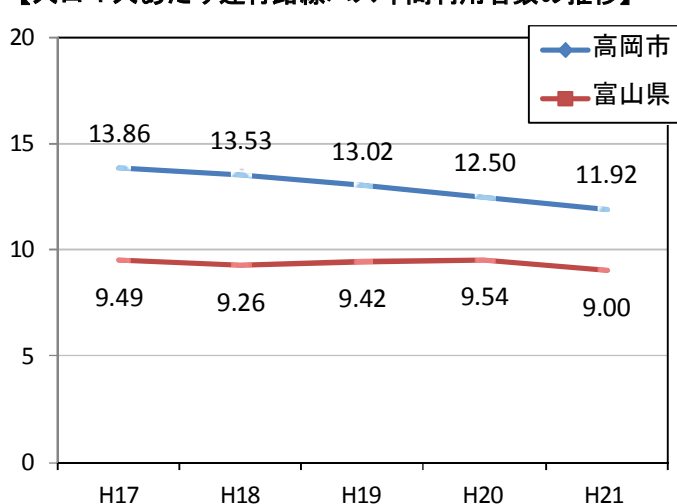


【事業区間の朝ピーク時バス旅行速度】



※出典：バスプローブデータ（H22）

【人口１人あたり運行路線バス年間利用者数の推移】



※出典：高岡市統計書



写真：国道8号 六家
(小矢部市方向を望む)

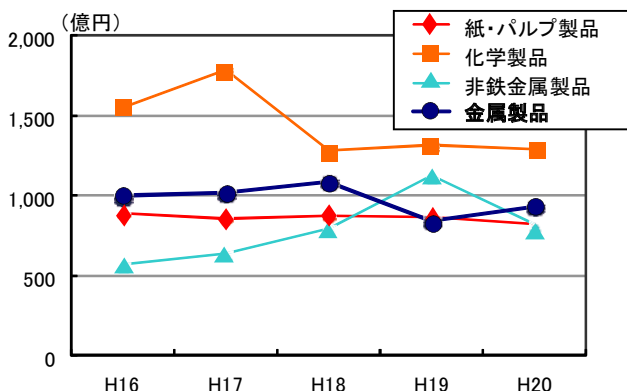
※平成23年7月撮影

⑤ 国際拠点港湾伏木富山港へのアクセス向上

- 事業区間周辺には、高岡市の主要産業であり、原材料のほとんどを輸入に頼るアルミ製品関連の工場が数多く立地している。
- 伏木税関支所管内（伏木富山港伏木地区他）における平成22年のアルミの輸入額は、総額の約3割を占めており、後背地となる高岡市街の工場群とのつながりが伺える。
- 西高岡拡幅の整備により、事業区間周辺の工場と伏木富山港とのアクセス性が向上し、物流の効率化が期待される。

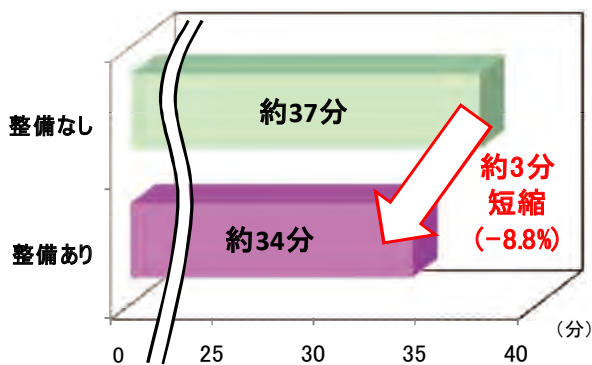


【高岡市の製造品別 出荷額の推移
(上位4項目抜粋)】



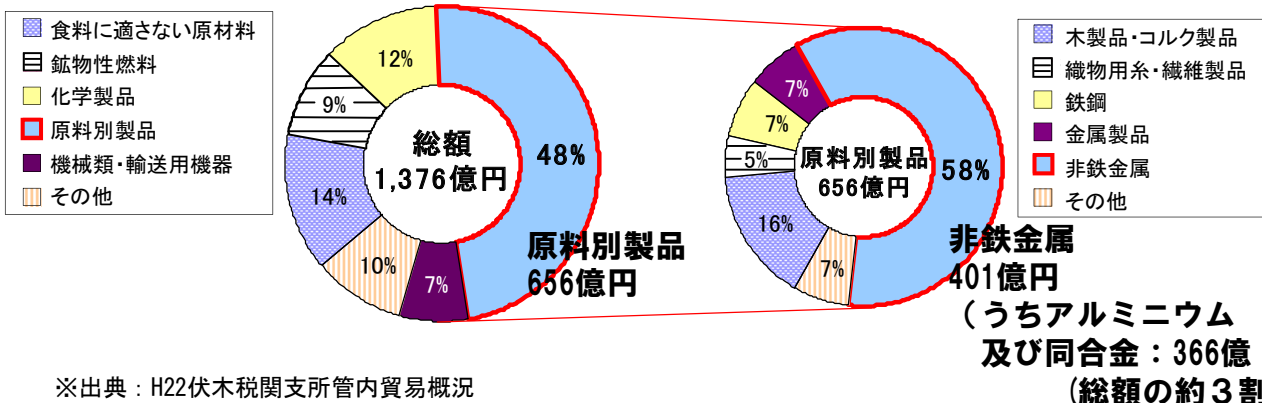
※出典：高岡市統計書（アルミサッシは金属製品に分類）

【高岡IC周辺～伏木富山港（伏木地区）間の
混雑時所要時間】



※出典：H42年将来推計値の最終速度を用いて算出

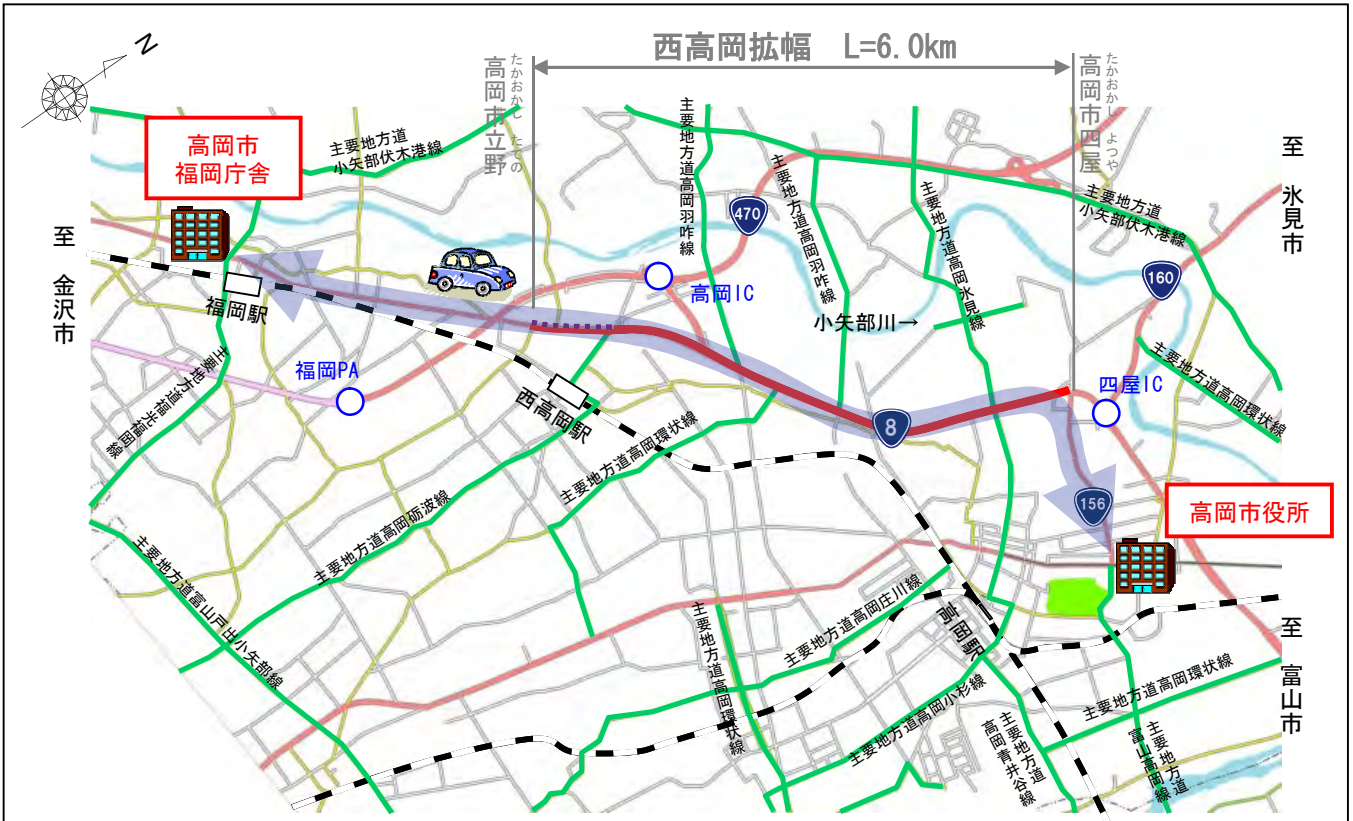
【伏木税関支所管内の原料別 輸入品額割合】



※出典：H22伏木税関支所管内貿易概況

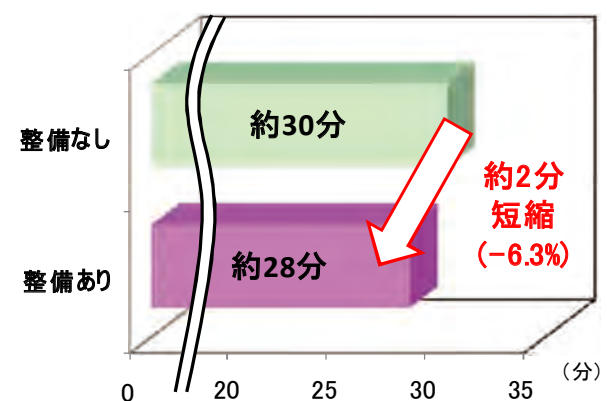
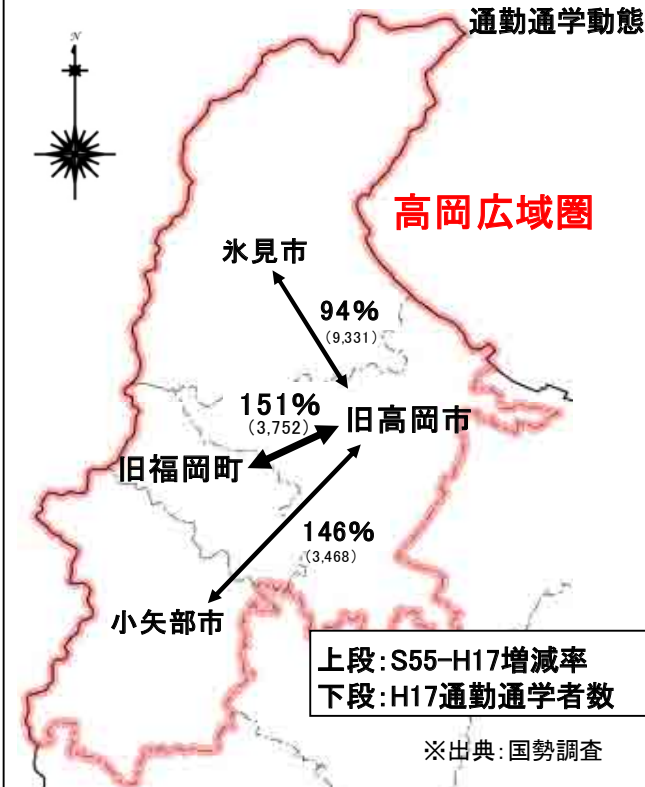
⑥ 日常活動圏中心都市(高岡市)へのアクセス向上

- 高岡広域圏(旧高岡市、旧福岡町、氷見市、小矢部市)の中心都市は高岡市であり、旧福岡町と旧高岡市間の通勤通学者数は当該事業の部分供用前の昭和55年から増加している。
- 西高岡拡幅の整備により、高岡市と隣接市町村間のアクセス性が向上し、日常活動の利便性向上が期待される。



【旧高岡市を中心とした高岡広域圏構成市町間の通勤通学動態】

【高岡市福岡庁舎～高岡市役所間の混雑時所要時間】



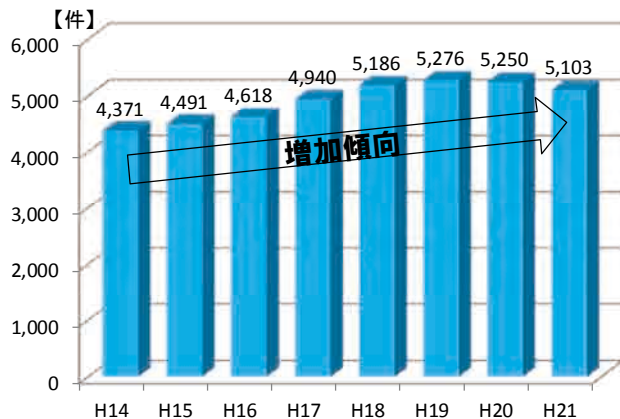
※出典: H42年将来推計値の最終速度を用いて算出

⑦ 第三次救急医療施設への命の道としてのアクセス向上

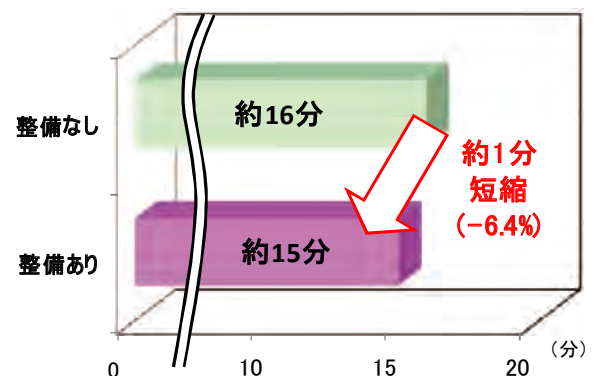
- 厚生連高岡病院は、第三次救急医療施設（救急救命センター等）に指定されており、県西部における高度な救急医療を24時間提供している。
- 高岡市では、急病による救急搬送件数が概ね増加傾向にあり、迅速な救急救命活動が必要である。
- 西高岡拡幅の整備により、福岡消防署から厚生連高岡病院への搬送時間が短縮し、救命率の向上に寄与することが期待される。



【高岡市の救急搬送件数】



【福岡消防署から厚生連高岡病院までの混雑時所要時間】



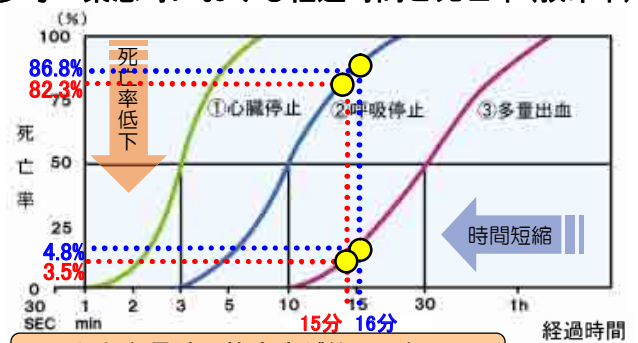
※出典: H42年将来推計値の最終速度を用いて算出

【厚生連高岡病院】



※ 出展: 厚生連高岡病院HP

【参考: 緊急時における経過時間と死亡率(救命率)】



出血多量時の救命率が約1%向上
呼吸停止時の救命率が約5%向上

※出典: カーラーの救命曲線

⑧ 土地区画整理事業など周辺地域開発の支援

- 事業区間沿道・周辺では、事業実施中に土地区画整理事業が施行された地区や大規模小売店舗が多く存在。
- 当該事業工事着手時より交通量は増加、旅行速度は向上しており、地域開発により増加する交通量を捌き、かつ交通量増加による更なる地域開発の一助となったと推察される。
- 残事業区間の整備により、更なる地域開発の支援、利用者の利便性向上が期待される。

【事業区間周辺の土地区画整理事業位置、及び大規模小売店舗の分布】



【事業区間周辺の土地区画整理事業】

図中番号	地区名	施行者	面積 (ha)	施行期間 (年度)
①	立野	組合	14.5	S54～H4
	立野東部	組合	6.8	S62～H5
	笹川	組合	2.3	S63～H4
②	中保	組合	25.0	H4～H14
③	北島	組合	1.1	H3～H5

※出典：富山県ホームページ

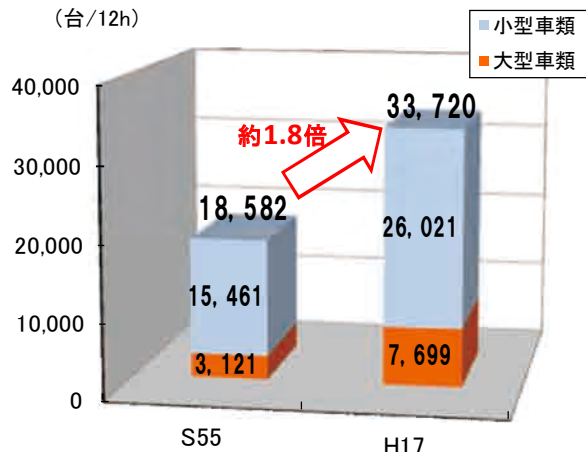
【事業区間周辺の大規模小売店舗】

図中番号	業態	店舗面積 (㎡)	開店日
①	ホームセンター	5,223	H19.3.25
②	ホームセンター	3,518	H6.12.1
③	家具取扱店	5,271	H19.4.20
④	家具取扱店	5,066	S52.5.1
⑤	家電取扱店	3,600	H12.8.11
⑥	スポーツ用品店	3,281	H10.9.10

※面積3,000㎡以上店舗についてとりまとめ

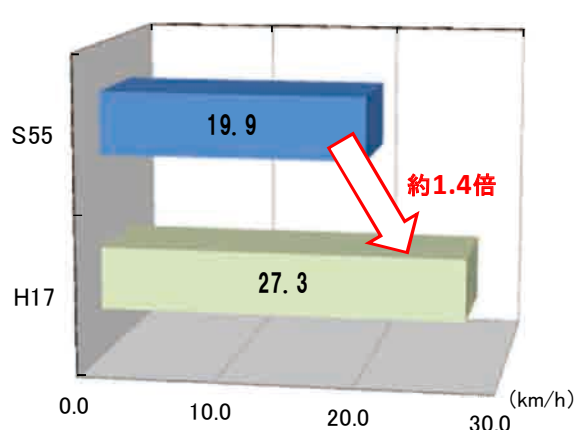
【事業区間の交通量の推移】

(台/12h)



※出典：道路交通センサス

【事業区間の旅行速度の推移】



※出典：道路交通センサス

5. 費用対効果

- ・基準年における費用及び便益の現在価値

現在価値算出のための割引率： 4%

基準年次： 平成23年度

検討年数： 50年

- ・将来道路網：現在の一般県道以上の道路網を基本に、平成23年4月時点で事業化済みの計画路線を対象にした道路網である。

<費用>

	基準年における現在価値		
	合計	事業費	維持管理費
事業全体	4 5 0 億円	4 1 8 億円	3 1 億円
残事業	6 . 9 億円	5 . 4 億円	1 . 5 億円

<3便益>

	基準年における現在価値			
	合計	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益
事業全体	5 3 5 億円	5 0 6 億円	2 6 億円	3 . 4 億円
残事業	1 8 億円	1 7 億円	0 . 6 8 億円	0 . 2 3 億円

<3便益による費用便益比>

事業全体	$5\,350\text{億円} / 4\,500\text{億円} = 1.2$
残事業	$18\text{億円} / 6.9\text{億円} = 2.6$

注) 1. 費用及び便益額は整数止めとする。

2. 費用及び便益額の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

<その他の効果>

西高岡拡幅の役割	具体的内容
① 老朽橋梁の架け替え	◆老朽橋梁架け替えによる道路の安全性、信頼性が向上
② 歩道不連続区間解消による通学児童の安全性の向上	◆歩道設置・拡幅による通学児童の安全性、利便性が向上
③ 緊急輸送道路としての役割	◆国道8号の第1次緊急通行確保路線としての信頼度が向上
④ 路線バスの利便性向上	◆路線バスの定時性が向上、利用者の利便性が向上
⑤ 国際拠点港湾伏木富山港へのアクセス向上	◆国際拠点港湾伏木富山港へのアクセス性が向上 (高岡IC周辺地区～伏木富山港(伏木地区)間 3分短縮(-8.8%))
⑥ 日常活動圏中心都市(高岡市)へのアクセス向上	◆日常生活圏中心都市へのアクセス性が向上 (高岡市福岡庁舎～高岡市役所間 2分短縮(-6.3%))
⑦ 第三次救急医療施設への命の道としてのアクセス向上	◆第三次救急医療施設へのアクセス性が向上 (福岡消防署から厚生連高岡病院まで 1分短縮(-6.4%))
⑧ 土地区画整理事業など周辺地域開発の支援	◆高岡市街の周辺地域開発を支援、利用者の利便性が向上

6.対応方針(原案)

① 事業の必要性等に関する視点

- ・国道8号西高岡拡幅残事業区間では、掛け替えが必要な老朽橋梁や歩道不連続区間があり、自動車や歩行者、特に通学児童の安全な通行環境を確保する必要がある。
- ・これまでの整備により渋滞の緩和、周辺の開発支援、路線バスの利便性向上、救急医療施設への搬送時間の短縮など、整備効果は多岐にわたっている。

② 事業進捗の見込みの視点

- ・現在、平成24年度の西高岡駅口交差点までの拡幅と中川橋の架け替え完了を目指して事業を進めている。
- ・架け替えについては、現在迂回路橋を設置済みであり、着実な進捗が見込まれる。
- ・JR西高岡駅へのアクセス道路と交差する西高岡駅口交差点までの拡幅整備により、当面整備を急ぐ区間の4車線化が終了することから事業を休止する。

③ コスト縮減からの視点

- ・施工にあたっては、中川橋の施工方法の見直し、交差点横断BOXについてはスロープ部の構造を見直す等、コスト縮減に努める。

④ 対応方針(原案)

対応方針(原案)

事業継続

(理由)

- ・国道8号は北陸地方を縦貫する主要幹線道路であり、その一部を構成する西高岡拡幅は広域的な通過交通や沿線地域間の連携を支援するために重要な役割を担っている。
- ・当面整備の必要な西高岡駅口交差点までの拡幅と、中川橋の架け替えを実施しており、供用による自動車や歩行者の安全な通行空間の確保などの効果が期待される。
- ・3便益の費用便益比は、全体事業が1.2、残事業が2.6となり、投資効率性は確保されている。

客觀的評價指標抽出資料

【一般国道（二次改築）】

● 事業採択時の前提条件を確認するための指標

前提条件	(1) 事業の効率性	■ 便益が費用を上回っていること
------	------------	------------------

● 事業の効果や必要性を評価するための指標

I. 活力	(1) 円滑なモビリティの確保	● 現道等の年間渋滞損失時間(人・時間)及び削減率
		■ 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される
		□ 現道又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上の上の踏切道の除却もしくは交通改善が期待される
		■ 現道等に、当該路線整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する
		□ 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる
		□ 拠点空港(会社管理空港、国管理空港、特定地方管理空港)、地方管理空港もしくはその他の空港・共用空港へのアクセス向上が見込まれる
	(2) 物流効率化の支援	■ 重要港湾もしくは国際拠点港湾へのアクセス向上が見込まれる
		□ 農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる
		□ 現道等における、総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する
	(3) 都市の再生	□ 都市再生プロジェクトを支援する事業である
		□ 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する
		□ 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり
		□ 中心市街地内で行う事業である
		□ 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km ² 以下である市街地内での事業である
		□ DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する
	(4) 国土・地域ネットワークの構築	□ 対象区間が現在連絡道路がない住宅宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上)への連絡道路となる
		□ 高速自動車国道と並行する自専道(A'路線)の位置づけあり
		□ 地域高規格道路の位置づけあり
		□ 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する(A'路線として位置づけがある場合)
		□ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する
		□ 現道等における交通不能区間を解消する
	(5) 個性ある地域の形成	□ 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する
		■ 日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる
		□ 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する
		□ 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する
		□ 主要な観光地へのアクセス向上が期待される
		□ 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である

Ⅱ. 暮らし	(1) 歩行者・自転車のための生活空間の形成	☐ 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上に該当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる ☐ 交通バリアフリー法に基づく重点整備地区における特定道路を形成する区間が新たにバリアフリー化される
	(2) 無電柱化による美しい町並みの形成	☐ 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけあり ☐ 市街地又は歴史景観地区(歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区)等の幹線道路において新たに無電柱化を達成する
	(3) 安全で安心できる暮らしの確保	■ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる
Ⅲ. 安全	(1) 安全な生活環境の確保	☐ 現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存在する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる ■ 当該区間の自動車交通量が1,000台/12h以上(当該区間が通学路である場合は500台/12h以上)かつ歩行者交通量100人/日以上(当該区間が通学路である場合は学童、園児が40人以上)の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される
	(2) 災害への備え	☐ 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2カ箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する ■ 対象区間が都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線(以下「緊急輸送道路」という)として位置づけあり ☐ 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する ☐ 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する(A'路線として位置づけがある場合) ■ 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要ある老朽橋梁における通行規制等が解消される ☐ 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する
	(1) 地球環境の保全	● 対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量
Ⅳ. 環境	(2) 生活環境の改善・保全	● 現道等における自動車からのNO2排出削減率 ● 現道等における自動車からのSPM排出削減率 ☐ 現道で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある ☐ その他、環境や景観上の効果が期待される
	(1) 他のプロジェクトとの関係	☐ 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要がある ■ 他機関との連携プログラムに位置づけられている
	(2) その他	☐ その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が期待される
Ⅴ. その他		

※○印の指標は定量的な記述により効果を確認する。

☐印の指標については定性的又は定量的な記述により効果の有無を確認する。

※●、■は該当する指標を示す。

○再評価実施時点における評価指標該当項目

前提条件

(1) 事業の効率性

B/C=1.2 (事業全体の3便益による費用対効果)

B/C=2.6 (残事業区間の完成供用を行った場合の3便益による費用対効果)

I. 活 力

(1) 円滑なモビリティの確保

- ・現道等の損失時間の削減率=約2.3% (詳述:P9)
(整備なし 約123万人時間/年 → 整備あり 約120万人時間/年)
- ・便益算定範囲の損失時間の削減率=約3.1% (詳述:P9)
(整備なし 約5,664万人時間/年 → 整備あり 約5,488万人時間/年)
- ・混雑時の旅行速度の改善が期待される。(詳述:P8)
(高岡市四屋~同市内島間 整備なし 22.9km/h → 整備あり 29.6km/h 約7km/h向上)
- ・路線バスの定時性の向上が期待される。(詳述:P14)
(当該区間を運行する路線バス50便/日)
※高岡環状道路と一体となった効果)

(2) 物流効率化の支援

- ・国際拠点港湾である伏木富山港へのアクセス向上が見込まれる。(詳述:P15)
(高岡IC~伏木富山港間 整備なし 37分 → 整備あり 34分 約3分短縮(-8.8%))

(4) 国土・地域ネットワークの構築

- ・日常活動圏中心都市(高岡市)へのアクセス向上が見込まれる。(詳述:P16)
(高岡市福岡庁舎~高岡市役所間 整備なし30分 → 整備あり28分 約2分短縮(-6.3%))

II. 暮らし

(3) 安全で安心できるくらしの確保

- ・第三次救急医療施設である厚生連高岡病院へのアクセス向上が見込まれる。(詳述:P17)
(福岡消防署~厚生連高岡病院間 整備なし16分 → 整備あり15分 約1分短縮(-6.4%))

III. 安 全

(1) 安全な生活環境の確保

- ・通学路前後の歩道未設置区間において、歩道が設置される。(詳述:P12)

(2) 災害への備え

- ・「富山県地域防災計画」の第一次緊急輸送道路ネットワークとして位置づけあり。
(詳述:P13)
- ・老朽橋梁が架け替えされる。(詳述:P11)

IV. 環 境

(1) 地球環境の保全

- ・費用便益算出エリアのCO₂排出量の削減量=2,992t-CO₂/年
(整備なし 655,684t-CO₂/年 → 整備あり 652,693t-CO₂/年)

(2) 生活環境の改善・保全

- ・費用便益算出エリアのNO_x排出削減率=0.49%
(整備なし 2,237t-NO_x/年 → 整備あり 2,226t-NO_x/年)
- ・費用便益算出エリアのSPM排出削減率=0.46%
(整備なし 194.5t-SPM/年 → 整備あり 193.6t-SPM/年)

V. その他

(1) 他のプロジェクトとの関係

- ・高岡市街地の土地区画整理事業や周辺開発を支援することが期待される。(詳述:P18)

費用対効果算出資料

費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・ＢＰ・その他別
国道8号	西高岡拡幅	L=6.0km	二次改築	現拡

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
15,000～43,100	4 (一部 2)	北陸地方整備局

① 費 用

	事業費	維持管理費	合 計
基 準 年	平成23年度		
単純合計	230億円	60億円	290億円
うち残事業分	5.6億円	3.6億円	9.2億円
基準年における 現在価値 (C)	418億円	31億円	450億円
うち残事業分	5.4億円	1.5億円	6.9億円

② 便 益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合 計
基 準 年	平成23年度			
供 用 年	平成19年度、平成25年度			
単年便益 (初年便益)	21億円	1.4億円	0.43億円	23億円
基準年における 現在価値 (B)	506億円	26億円	3.4億円	535億円
うち残事業分	17億円	0.68億円	0.23億円	18億円

③ 結 果

費用便益比（事業全体）	1.2
経済的純現在価値（事業全体）	86億円
経済的内部収益率（事業全体）	4.6%
費用便益比（残事業）	2.6
経済的純現在価値（残事業）	11億円
経済的内部収益率（残事業）	15.5%

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

④ 感 度 分 析 （残事業を対象）

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比（B／C）
交通量	15,000～43,100	± 10%	1.7～3.8
事業費	5.6億円	± 10%	2.4～2.8
事業期間	1年	± 20%	—

交通状況の変化

様式－3①

事業名：西高岡拡幅

(事業全体)

(推計時点 H42年)

			整備なし (A)	整備あり (B)	
①新設・改築道路 〔西高岡拡幅〕 : 6.0km		交通量※ ¹	[台/日]	15,000	24,900
		走行時間※ ²	[分]	10.6	8.7
		走行時間費用※ ³	[億円/年]	28.91	39.54
②主な周辺道路※ ⁴	A. (主)小矢部伏木港線: 11.6km	交通量	[台/日]	7,000	5,900
		走行時間	[分]	20.4	19.8
		走行時間費用	[億円/年]	24.75	17.99
	B. 国道470号: 4.5km	交通量	[台/日]	13,100	9,800
		走行時間	[分]	6.1	5.1
		走行時間費用	[億円/年]	13.93	8.72
	C. (主)高岡環状線: 4.6km	交通量	[台/日]	17,600	15,200
		走行時間	[分]	3.5	3.5
		走行時間費用	[億円/年]	11.01	9.38
	D. (主)高岡小杉線: 5.7km	交通量	[台/日]	4,400	2,300
		走行時間	[分]	10.0	9.0
		走行時間費用	[億円/年]	8.81	3.77
	E. 国道156号: 10.3km	交通量	[台/日]	15,900	14,900
		走行時間	[分]	14.7	14.4
		走行時間費用	[億円/年]	40.10	36.43
③その他道路合計 904.9km		走行時間費用	[億円/年]	1,901.83	1,894.95

			走行時間費用 整備なし (A)	走行時間費用 整備あり (B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計 : 947.6 km	走行時間短縮便益	[億円/年]	2,029.34	2,010.78	18.56

※1 : 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。

※2 : 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。

※3 : 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。

※4 : 当該事業により大きな変化が生じる道路について3～5路線程度以内で記載する。

※5 : ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。



交通状況の変化

様式－３①

事業名：西高岡拡幅

(残事業)

(推計時点 H42年)

			整備なし (A)	整備あり (B)
①新設・改築道路 [西高岡拡幅] : 0.3km	交通量※ ¹	[台/日]	15,500	15,900
	走行時間※ ²	[分]	1.1	0.9
	走行時間費用※ ³	[億円/年]	3.20	2.66
③その他道路合計 16.0km	走行時間費用	[億円/年]	33.80	33.55

			走行時間費用 整備なし (A)	走行時間費用 整備あり (B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計：16.3 km	走行時間短縮便益	[億円/年]	37.00	36.21	0.79

※ 1： 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。

※ 2： 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。

※ 3： 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。

※ 4： 当該事業により大きな変化が生じる道路について 3～5 路線程度以内で記載する。

※ 5： ②主な周辺道路における交通量の予測地点は、事業全体と残事業で同地点において設定する。



費用便益分析の条件

事業名：西高岡拡幅

(2)

項目		チェック欄	
算出マニュアル	費用便益分析マニュアル (平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局)	☒	
	その他	☐	
分析の基本的事項	分析対象期間	50年	
	社会的割引率	4%	
	基準年次	H23年	
交通流推計	交通流の推計時点	1時点のみ推計	☐
		複数時点での推計	☒ (H17 H42)
	推計の状況	整備の有無それぞれで交通流を推計	☒
		整備の有無のいずれかのみ推計	☐ 有 ☐ 無
		いずれかのみ推計の場合	いずれかのみ推計とした理由を記載
	推計に用いたOD表	道路交通センサスをベースとした自動車OD表 (三段階推定法)	☒ (H17年センサス)
		パーソントリップ調査をベースとした自動車OD表 (四段階推定法)	☐
		その他()	☐
		開発交通量の考慮	無
	有		☐
	有の場合のみ		考慮した開発交通量(トリップ数) 考慮した理由を記載
	配分交通量の推計手法	Q-V式を用いた配分	☐
		転換率式を用いた配分	☐
		Q-V式と転換率式の併用による配分	☒
		均衡配分(リンクパフォーマンス関数を用いた配分)	☐
簡易手法		☐	
簡易手法の採択理由		小規模事業である	☐
		山間部海岸部で併行道路が少ない	☐
		その他()	
簡易手法の考え方(将来交通量の設定方法等)			
速度設定の考え方	各回の配分終了時の速度を交通量でウェイト付けして設定 採用理由を記載	☐	
	最終配分の速度 採用理由を記載	☐	
	その他(最終配分でQ ₀ を超える場合、実速度と照合し設定。)	☒	

(3)

[illegible]

項目			チェック欄	
便 益 の 算 定	休日交通の 影響	考慮しない	■	
		考慮する	□	
		考慮する 場合のみ	面的に考慮	□
			対象路線のみ考慮	□
			採用した休日係数 休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方を記載	() %
	災害等による 通行止めの 影響	考慮しない	■	
		考慮する	□	
		考慮する 場合のみ	採用した通行止め日数 採用した通行止め日数の考え方を記載	() 日
			とり止め交通を考慮する とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合はその考え方を記載	□
	冬期交通の 影響	考慮しない	□	
		考慮する	■	
		考慮する 場合のみ	採用した冬期日数(年あたり) 採用した冬期日数の考え方を記載 降雪が最初に観測された日から最後に観測された比までの日数を考慮	(88) 日
			冬期の走行速度と交通容量の関係 設定の考え方を記載	
			通常期と冬期の速度比を考慮	
	交通流推計の 時点以外の 便益の算定	ブロック別・車種別走行台キロの伸び率による設定	■	
その他 (				

事業名：西高岡拡幅

(4)

項目		チェック欄	
費用 の 算 定	事業費	詳細事業計画による値を採用	☒
		標準投資パターンを採用	☐
		その他()	☐
	維持管理費	維持管理費の設定根拠を記載	
		北陸地方整備局管内直轄路線の実績値から設定	
	雪寒費	積雪地域または寒冷地域である	☒
その他			
4. その他			

費用の現在価値算定表

箇所名: 西高岡拡幅(事業全体)

維持管理費の単価単価の算出(消費税相当額含む)

年次	年度	割戻率	GDP デフレ-タ	事業費(億円)		維持管理費(億円)	
				単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
―30年目	S 52	3.7943	76.0	0.10	0.45		
―29年目	S 53	3.6484	79.2	0.10	0.41		
―28年目	S 54	3.5081	81.3	1.20	4.27		
―27年目	S 55	3.3731	86.4	2.10	7.24		
―26年目	S 56	3.2434	88.6	4.30	14.05		
―25年目	S 57	3.1187	89.6	5.60	17.52		
―24年目	S 58	2.9987	90.5	4.80	14.34		
―23年目	S 59	2.8834	92.3	7.60	21.45		
―22年目	S 60	2.7725	93.0	7.40	20.15		
―21年目	S 61	2.6658	94.6	6.70	17.28		
―20年目	S 62	2.5633	94.4	10.30	25.33		
―19年目	S 63	2.4647	94.9	7.10	16.65		
―18年目	H 1	2.3699	97.4	8.77	19.40		
―17年目	H 2	2.2788	99.6	5.98	12.75		
―16年目	H 3	2.1911	102.0	8.91	17.90		
―15年目	H 4	2.1068	103.4	12.34	23.68		
―14年目	H 5	2.0258	103.7	8.65	16.15		
―13年目	H 6	1.9479	103.6	8.49	15.59		
―12年目	H 7	1.8730	103.0	6.27	11.54		
―11年目	H 8	1.8009	102.4	8.96	15.16		
―10年目	H 9	1.7317	103.4	8.44	13.92		
―9年目	H 10	1.6651	102.8	19.76	30.23		
―8年目	H 11	1.6010	101.3	13.00	19.04		
―7年目	H 12	1.5395	99.7	5.20	7.70		
―6年目	H 13	1.4802	98.4	5.78	8.49		
―5年目	H 14	1.4233	96.6	5.76	7.93		
―4年目	H 15	1.3686	95.4	10.67	14.08		
―3年目	H 16	1.3159	94.4	7.76	9.80		
―2年目	H 17	1.2653	93.2	5.56	6.79		
―1年目	H 18	1.2167	92.5	5.72	6.78		
供用開始年次	H 19	1.1699	91.7	3.07	3.54	1.14	1.31
1年目	H 20	1.1249	91.2	0.13	0.14	1.14	1.27
2年目	H 21	1.0816	90.0	1.15	1.24	1.14	1.24
3年目	H 22	1.0400	90.0	1.96	2.04	1.14	1.19
4年目	H 23	1.0000	90.0	4.94	4.94	1.14	1.14
5年目	H 24	0.9615	90.0	5.61	5.39	1.14	1.10
6年目	H 25	0.9246	90.0			1.21	1.12
7年目	H 26	0.8890	90.0			1.21	1.08
8年目	H 27	0.8548	90.0			1.21	1.04
9年目	H 28	0.8219	90.0			1.21	1.00
10年目	H 29	0.7903	90.0			1.21	0.96
11年目	H 30	0.7599	90.0			1.21	0.92
12年目	H 31	0.7307	90.0			1.21	0.89
13年目	H 32	0.7026	90.0			1.21	0.85
14年目	H 33	0.6756	90.0			1.21	0.82
15年目	H 34	0.6496	90.0			1.21	0.79
16年目	H 35	0.6246	90.0			1.21	0.76
17年目	H 36	0.6006	90.0			1.21	0.73
18年目	H 37	0.5775	90.0			1.21	0.70
19年目	H 38	0.5553	90.0			1.21	0.67
20年目	H 39	0.5339	90.0			1.21	0.65
21年目	H 40	0.5134	90.0			1.21	0.62
22年目	H 41	0.4936	90.0			1.21	0.60
23年目	H 42	0.4746	90.0			1.21	0.58
24年目	H 43	0.4564	90.0			1.21	0.55
25年目	H 44	0.4388	90.0			1.21	0.53
26年目	H 45	0.4220	90.0			1.21	0.51
27年目	H 46	0.4057	90.0			1.21	0.49
28年目	H 47	0.3901	90.0			1.21	0.47
29年目	H 48	0.3751	90.0			1.21	0.46
30年目	H 49	0.3607	90.0			1.21	0.44
31年目	H 50	0.3468	90.0			1.21	0.42
32年目	H 51	0.3335	90.0			1.21	0.40
33年目	H 52	0.3207	90.0			1.21	0.39
34年目	H 53	0.3083	90.0			1.21	0.37
35年目	H 54	0.2965	90.0			1.21	0.36
36年目	H 55	0.2851	90.0			1.21	0.35
37年目	H 56	0.2741	90.0			1.21	0.33
38年目	H 57	0.2636	90.0			1.21	0.32
39年目	H 58	0.2534	90.0			1.21	0.31
40年目	H 59	0.2437	90.0			1.21	0.30
41年目	H 60	0.2343	90.0			1.21	0.28
42年目	H 61	0.2253	90.0			1.21	0.27
43年目	H 62	0.2166	90.0			1.21	0.26
44年目	H 63	0.2083	90.0			1.21	0.25
45年目	H 64	0.2003	90.0			1.21	0.24
46年目	H 65	0.1926	90.0			1.21	0.23
47年目	H 66	0.1852	90.0			1.21	0.22
48年目	H 67	0.1780	90.0			1.21	0.22
49年目	H 68	0.1712	90.0	-76.17	-15.01	1.21	0.21
合 計				154.02	418.35	60.29	31.21
単純事業費計				230.19		60.29	

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
 このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。
 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

費用の現在価値算定表

箇所名：西高岡拡幅(残事業)

維持管理費の単価単価の算出(消費税相当額含む)

箇所名: 西高岡拡幅(残事業)				単価(億円)		延長(km)		単純価値(億円)	
				0.25		0.3		0.08	
年次	年度	割戻率	GDP デフレーター	事業費(億円)		維持管理費(億円)			
				単純価値	現在価値	単純価値	現在価値		
－36年目	S 52	3.7943	76.0						
－35年目	S 53	3.6484	79.2						
－34年目	S 54	3.5081	81.3						
－33年目	S 55	3.3731	86.4						
－32年目	S 56	3.2434	88.6						
－31年目	S 57	3.1187	89.6						
－30年目	S 58	2.9987	90.5						
－29年目	S 59	2.8834	92.3						
－28年目	S 60	2.7725	93.0						
－27年目	S 61	2.6658	94.6						
－26年目	S 62	2.5633	94.4						
－25年目	S 63	2.4647	94.9						
－24年目	H 1	2.3699	97.4						
－23年目	H 2	2.2788	99.6						
－22年目	H 3	2.1911	102.0						
－21年目	H 4	2.1068	103.4						
－20年目	H 5	2.0258	103.7						
－19年目	H 6	1.9479	103.6						
－18年目	H 7	1.8730	103.0						
－17年目	H 8	1.8009	102.4						
－16年目	H 9	1.7317	103.4						
－15年目	H 10	1.6651	102.8						
－14年目	H 11	1.6010	101.3						
－13年目	H 12	1.5395	99.7						
－12年目	H 13	1.4802	98.4						
－11年目	H 14	1.4233	96.6						
－10年目	H 15	1.3686	95.4						
－9年目	H 16	1.3159	94.4						
－8年目	H 17	1.2653	93.2						
－7年目	H 18	1.2167	92.5						
－6年目	H 19	1.1699	91.7						
－5年目	H 20	1.1249	91.2						
－4年目	H 21	1.0816	90.0						
－3年目	H 22	1.0400	90.0						
－2年目	H 23	1.0000	90.0						
－1年目	H 24	0.9615	90.0	5.61	5.39				
供用開始年次	H 25	0.9246	90.0			0.07	0.07		
1年目	H 26	0.8890	90.0			0.07	0.06		
2年目	H 27	0.8548	90.0			0.07	0.06		
3年目	H 28	0.8219	90.0			0.07	0.06		
4年目	H 29	0.7903	90.0			0.07	0.06		
5年目	H 30	0.7599	90.0			0.07	0.05		
6年目	H 31	0.7307	90.0			0.07	0.05		
7年目	H 32	0.7026	90.0			0.07	0.05		
8年目	H 33	0.6756	90.0			0.07	0.05		
9年目	H 34	0.6496	90.0			0.07	0.05		
10年目	H 35	0.6246	90.0			0.07	0.04		
11年目	H 36	0.6006	90.0			0.07	0.04		
12年目	H 37	0.5775	90.0			0.07	0.04		
13年目	H 38	0.5553	90.0			0.07	0.04		
14年目	H 39	0.5339	90.0			0.07	0.04		
15年目	H 40	0.5134	90.0			0.07	0.04		
16年目	H 41	0.4936	90.0			0.07	0.04		
17年目	H 42	0.4746	90.0			0.07	0.03		
18年目	H 43	0.4564	90.0			0.07	0.03		
19年目	H 44	0.4388	90.0			0.07	0.03		
20年目	H 45	0.4220	90.0			0.07	0.03		
21年目	H 46	0.4057	90.0			0.07	0.03		
22年目	H 47	0.3901	90.0			0.07	0.03		
23年目	H 48	0.3751	90.0			0.07	0.03		
24年目	H 49	0.3607	90.0			0.07	0.03		
25年目	H 50	0.3468	90.0			0.07	0.02		
26年目	H 51	0.3335	90.0			0.07	0.02		
27年目	H 52	0.3207	90.0			0.07	0.02		
28年目	H 53	0.3083	90.0			0.07	0.02		
29年目	H 54	0.2965	90.0			0.07	0.02		
30年目	H 55	0.2851	90.0			0.07	0.02		
31年目	H 56	0.2741	90.0			0.07	0.02		
32年目	H 57	0.2636	90.0			0.07	0.02		
33年目	H 58	0.2534	90.0			0.07	0.02		
34年目	H 59	0.2437	90.0			0.07	0.02		
35年目	H 60	0.2343	90.0			0.07	0.02		
36年目	H 61	0.2253	90.0			0.07	0.02		
37年目	H 62	0.2166	90.0			0.07	0.02		
38年目	H 63	0.2083	90.0			0.07	0.01		
39年目	H 64	0.2003	90.0			0.07	0.01		
40年目	H 65	0.1926	90.0			0.07	0.01		
41年目	H 66	0.1852	90.0			0.07	0.01		
42年目	H 67	0.1780	90.0			0.07	0.01		
43年目	H 68	0.1712	90.0			0.07	0.01		
44年目	H 69	0.1646	90.0			0.07	0.01		
45年目	H 70	0.1583	90.0			0.07	0.01		
46年目	H 71	0.1522	90.0			0.07	0.01		
47年目	H 72	0.1463	90.0			0.07	0.01		
48年目	H 73	0.1407	90.0			0.07	0.01		
49年目	H 74	0.1353	90.0	0.00	0.00	0.07	0.01		
合 計				5.61	5.39	3.57	1.46		
単純事業費計				5.61		3.57			

注1) 事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した投資パターンであり、必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。
 このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。
 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として評価を実施。)

注2) 評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

便益の現在価値算定表

箇所名: 西高岡掘堀(事業全体)

年度 (基準年)	年次	総走行台+αの年次別伸び率 (北陸プロパ)				GDP デフレ率	走行時間短縮便益(億円)				走行経費減少便益(億円)				事故減少便益(億円)				合 計 (億円)
		乗用車類		全 車			現在価値 ①×(A)	乗用車類	小型貨物	普通貨物	① 計	現在価値 (A)×②	③	現在価値 ③×(A)	便益合計 (①)~(③)	割引率%			
		小型貨物	普通貨物	乗用車類	小型貨物												普通貨物	② 計	
供用開始年次	H 19	91.7	1.1699	91.7	1.1699	91.7	21.38	24.55	1.44	1.65	0.43	0.50	23.25	26.70					
1年目	H 20	0.99480	0.98385	0.97787	0.99086	91.2	21.15	23.48	0.83	1.51	0.43	0.48	22.99	25.52					
2年目	H 21	0.99477	0.98359	0.97737	0.99077	90.0	20.91	22.62	0.81	1.39	0.42	0.46	22.73	24.58					
3年目	H 22	0.99475	0.98331	0.97684	0.99069	90.0	20.68	21.50	0.79	1.37	0.42	0.44	22.47	23.37					
4年目	H 23	0.99472	0.98303	0.97629	0.99060	90.0	20.44	20.44	0.77	1.35	0.42	0.42	22.21	22.21					
5年目	H 24	0.99469	0.98273	0.97572	0.99051	90.0	20.21	19.43	0.75	1.32	0.41	0.40	21.94	21.10					
6年目	H 25	0.99466	0.98243	0.97511	0.99042	90.0	21.60	19.97	0.69	1.02	0.94	0.04	22.66	20.95					
7年目	H 26	0.99463	0.98212	0.97448	0.99033	90.0	21.38	19.01	0.69	1.00	0.89	0.04	22.43	19.94					
8年目	H 27	0.99460	0.98179	0.97381	0.99023	90.0	21.16	18.09	0.69	0.99	0.85	0.03	22.20	18.97					
9年目	H 28	0.99457	0.98145	0.97310	0.99014	90.0	20.94	17.21	0.68	0.98	0.81	0.03	21.96	18.05					
10年目	H 29	0.99454	0.98110	0.97236	0.99004	90.0	20.72	16.37	0.68	0.97	0.77	0.03	21.73	17.18					
11年目	H 30	0.99451	0.98074	0.97157	0.98994	90.0	20.50	15.58	0.68	0.96	0.73	0.04	21.50	16.34					
12年目	H 31	0.99448	0.98036	0.97074	0.98984	90.0	20.28	14.82	0.67	0.95	0.70	0.03	21.27	15.54					
13年目	H 32	0.99445	0.97997	0.96986	0.98973	90.0	20.06	14.09	0.67	0.94	0.66	0.03	21.04	14.78					
14年目	H 33	0.99588	0.98583	0.98106	0.99285	90.0	19.91	13.45	0.67	0.94	0.63	0.03	20.88	14.11					
15年目	H 34	0.99586	0.98563	0.98070	0.99280	90.0	19.76	12.84	0.66	0.93	0.60	0.02	20.73	13.46					
16年目	H 35	0.99585	0.98542	0.98032	0.99275	90.0	19.61	12.25	0.66	0.92	0.58	0.02	20.57	12.85					
17年目	H 36	0.99583	0.98520	0.97992	0.99270	90.0	19.46	11.69	0.66	0.92	0.55	0.04	20.41	12.26					
18年目	H 37	0.99581	0.98498	0.97951	0.99264	90.0	19.31	11.15	0.65	0.91	0.52	0.02	20.25	11.70					
19年目	H 38	0.99579	0.98475	0.97908	0.99259	90.0	19.16	10.64	0.65	0.90	0.50	0.04	20.10	11.16					
20年目	H 39	0.99578	0.98452	0.97864	0.99253	90.0	19.01	10.15	0.65	0.89	0.48	0.02	19.94	10.65					
21年目	H 40	0.99576	0.98427	0.97817	0.99248	90.0	18.86	9.68	0.65	0.89	0.46	0.02	19.78	10.16					
22年目	H 41	0.99574	0.98402	0.97768	0.99242	90.0	18.71	9.24	0.64	0.88	0.43	0.02	19.63	9.69					
23年目	H 42	0.99572	0.98376	0.97717	0.99236	90.0	18.56	8.81	0.64	0.87	0.41	0.02	19.47	9.24					
24年目	H 43	0.99577	0.98335	0.97651	0.99230	90.0	18.42	8.41	0.63	0.87	0.40	0.02	19.32	8.82					
25年目	H 44	0.99069	0.99330	1.00200	0.99199	90.0	18.28	8.02	0.63	0.86	0.38	0.04	19.17	8.41					
26年目	H 45	0.99060	0.99326	1.00200	0.99193	90.0	18.14	7.65	0.62	0.85	0.36	0.01	19.02	8.03					
27年目	H 46	0.99051	0.99321	1.00199	0.99186	90.0	18.00	7.30	0.62	0.85	0.34	0.01	18.88	7.66					
28年目	H 47	0.99042	0.99316	1.00199	0.99179	90.0	17.85	6.96	0.61	0.84	0.33	0.03	18.73	7.31					
29年目	H 48	0.99033	0.99312	1.00198	0.99173	90.0	17.71	6.64	0.61	0.83	0.31	0.01	18.58	6.97					
30年目	H 49	0.99023	0.99307	1.00198	0.99166	90.0	17.57	6.34	0.60	0.82	0.30	0.01	18.43	6.65					
31年目	H 50	0.99014	0.99302	1.00198	0.99159	90.0	17.43	6.04	0.59	0.82	0.28	0.03	18.28	6.34					
32年目	H 51	0.99004	0.99297	1.00197	0.99152	90.0	17.29	5.77	0.59	0.81	0.27	0.03	18.13	6.05					
33年目	H 52	0.98994	0.99292	1.00197	0.99144	90.0	17.15	5.50	0.58	0.80	0.26	0.03	17.98	5.77					
34年目	H 53	0.98984	0.99287	1.00196	0.99137	90.0	17.01	5.24	0.58	0.80	0.25	0.03	17.84	5.50					
35年目	H 54	0.98973	0.99282	1.00196	0.99129	90.0	16.86	5.00	0.57	0.79	0.23	0.01	17.69	5.24					
36年目	H 55	0.98963	0.99277	1.00196	0.99122	90.0	16.72	4.77	0.56	0.78	0.22	0.03	17.54	5.00					
37年目	H 56	0.98952	0.99272	1.00195	0.99114	90.0	16.58	4.55	0.56	0.77	0.21	0.03	17.39	4.77					
38年目	H 57	0.98941	0.99266	1.00195	0.99106	90.0	16.44	4.33	0.55	0.77	0.20	0.03	17.24	4.55					
39年目	H 58	0.98929	0.99261	1.00194	0.99098	90.0	16.30	4.13	0.55	0.76	0.19	0.03	17.09	4.33					
40年目	H 59	0.98918	0.99255	1.00194	0.99090	90.0	16.16	3.94	0.54	0.76	0.18	0.03	16.95	4.13					
41年目	H 60	0.98906	0.99250	1.00194	0.99081	90.0	16.02	3.75	0.53	0.75	0.18	0.03	16.80	3.94					
42年目	H 61	0.98894	0.99244	1.00193	0.99073	90.0	15.88	3.58	0.53	0.74	0.17	0.03	16.65	3.75					
43年目	H 62	0.98881	0.99238	1.00193	0.99064	90.0	15.73	3.41	0.52	0.74	0.16	0.03	16.50	3.57					
44年目	H 63	0.98870	0.99233	1.00193	0.99056	90.0	15.59	3.25	0.52	0.73	0.15	0.03	16.35	3.41					
45年目	H 64	0.98859	0.99228	1.00193	0.99048	90.0	15.45	3.10	0.51	0.72	0.14	0.03	16.20	3.25					
46年目	H 65	0.98848	0.99223	1.00193	0.99040	90.0	15.31	2.95	0.50	0.71	0.14	0.03	16.06	3.09					
47年目	H 66	0.98837	0.99218	1.00193	0.99032	90.0	15.17	2.81	0.50	0.71	0.13	0.03	15.91	2.95					
48年目	H 67	0.98826	0.99213	1.00193	0.99024	90.0	15.03	2.68	0.49	0.70	0.12	0.03	15.76	2.81					
49年目	H 68	0.98815	0.99208	1.00193	0.99016	90.0	14.89	2.55	0.49	0.70	0.12	0.03	15.61	2.67					
合 計							916.74	505.71	29.55	7.88	8.02	4.06	966.26	535.44					

便益の現在価値算定表

箇所名: 西高岡抗幅(残事業)

年次 (基準年)	年度 H23 供用開始年次	総走行台キロの年次別伸び率 (北陸電力)				GDP デフレーター	割戻率 (A)	走行時間短縮便益(億円)				走行経費減少便益(億円)				事故減少便益(億円)		合 計 (億円)	
		乗用車類		全 車				現在価値 ①×(A)	乗用車類	小型貨物	普通貨物	② 計	現在価値 (A)×②	③	現在価値 (3)×(A)	便益合計 (1)~(3)	割引率4%		
		乗用車類	小型貨物	普通貨物	全 車														
1年目	H 25	26	0.99463	0.98212	0.97448	0.99033	0.8890	90.0	0.56	0.06	0.32	0.89	0.08	0.00	-0.05	0.03	0.01	1.00	0.93
2年目	H 26	27	0.99460	0.98179	0.97381	0.99023	0.8548	90.0	0.56	0.06	0.31	0.84	0.08	0.00	-0.05	0.03	0.01	0.99	0.88
3年目	H 28	29	0.99457	0.98145	0.97310	0.99014	0.8219	90.0	0.56	0.06	0.30	0.82	0.08	0.00	-0.05	0.03	0.01	0.98	0.84
4年目	H 28	29	0.99454	0.98110	0.97236	0.99004	0.7903	90.0	0.56	0.06	0.29	0.81	0.08	0.00	-0.05	0.03	0.01	0.97	0.80
5年目	H 30	30	0.99451	0.98074	0.97157	0.98994	0.7599	90.0	0.55	0.06	0.29	0.81	0.08	0.00	-0.05	0.03	0.01	0.96	0.76
6年目	H 31	31	0.99448	0.98036	0.97074	0.98984	0.7307	90.0	0.55	0.06	0.28	0.89	0.07	0.00	-0.04	0.03	0.01	0.93	0.68
7年目	H 32	32	0.99445	0.97997	0.96986	0.98973	0.7026	90.0	0.55	0.06	0.27	0.87	0.07	0.00	-0.04	0.04	0.01	0.92	0.65
8年目	H 33	33	0.99588	0.98583	0.98106	0.99285	0.7656	90.0	0.54	0.06	0.26	0.87	0.07	0.00	-0.04	0.04	0.01	0.91	0.62
9年目	H 34	34	0.99586	0.98563	0.98070	0.99280	0.7406	90.0	0.54	0.06	0.26	0.86	0.07	0.00	-0.04	0.04	0.01	0.91	0.59
10年目	H 35	35	0.99585	0.98542	0.98275	0.99275	0.7246	90.0	0.54	0.06	0.25	0.85	0.07	0.00	-0.04	0.04	0.01	0.90	0.56
11年目	H 36	36	0.99583	0.98520	0.97992	0.99270	0.7006	90.0	0.54	0.05	0.25	0.84	0.07	0.00	-0.04	0.04	0.01	0.89	0.53
12年目	H 37	37	0.99581	0.98498	0.97951	0.99264	0.6775	90.0	0.53	0.05	0.24	0.83	0.07	0.00	-0.04	0.04	0.01	0.88	0.51
13年目	H 38	38	0.99579	0.98475	0.97908	0.99259	0.6553	90.0	0.53	0.05	0.24	0.82	0.07	0.00	-0.04	0.04	0.01	0.87	0.49
14年目	H 39	39	0.99578	0.98452	0.97864	0.99253	0.6339	90.0	0.53	0.05	0.23	0.82	0.07	0.00	-0.04	0.04	0.01	0.87	0.46
15年目	H 40	40	0.99576	0.98427	0.97817	0.99248	0.6134	90.0	0.53	0.05	0.23	0.81	0.07	0.00	-0.04	0.04	0.01	0.86	0.44
16年目	H 41	41	0.99574	0.98402	0.97768	0.99242	0.5936	90.0	0.53	0.05	0.22	0.80	0.07	0.00	-0.03	0.04	0.01	0.85	0.42
17年目	H 42	42	0.99572	0.98376	0.97717	0.99236	0.5746	90.0	0.52	0.05	0.22	0.79	0.07	0.00	-0.03	0.04	0.01	0.84	0.40
18年目	H 43	43	0.99077	0.99335	1.00200	0.99205	0.4564	90.0	0.52	0.05	0.22	0.79	0.07	0.00	-0.03	0.04	0.01	0.84	0.38
19年目	H 44	44	0.99069	0.99330	1.00200	0.99199	0.4388	90.0	0.51	0.05	0.22	0.78	0.07	0.00	-0.03	0.04	0.01	0.83	0.36
20年目	H 45	45	0.99060	0.99326	1.00200	0.99193	0.4220	90.0	0.51	0.05	0.22	0.78	0.07	0.00	-0.03	0.04	0.01	0.83	0.35
21年目	H 46	46	0.99051	0.99321	1.00199	0.99186	0.4057	90.0	0.50	0.05	0.22	0.77	0.07	0.00	-0.03	0.04	0.01	0.82	0.33
22年目	H 47	47	0.99042	0.99316	1.00199	0.99179	0.3901	90.0	0.50	0.05	0.22	0.77	0.07	0.00	-0.03	0.04	0.01	0.81	0.32
23年目	H 48	48	0.99033	0.99312	1.00198	0.99173	0.3751	90.0	0.49	0.05	0.22	0.76	0.07	0.00	-0.03	0.04	0.01	0.81	0.30
24年目	H 49	49	0.99023	0.99307	1.00198	0.99166	0.3607	90.0	0.49	0.05	0.22	0.76	0.07	0.00	-0.03	0.03	0.01	0.80	0.29
25年目	H 50	50	0.99014	0.99302	1.00198	0.99159	0.3468	90.0	0.49	0.05	0.22	0.75	0.07	0.00	-0.03	0.03	0.01	0.80	0.28
26年目	H 51	51	0.99004	0.99297	1.00197	0.99152	0.3335	90.0	0.48	0.05	0.22	0.75	0.07	0.00	-0.03	0.03	0.01	0.79	0.26
27年目	H 52	52	0.98994	0.99292	1.00197	0.99144	0.3207	90.0	0.48	0.05	0.22	0.74	0.06	0.00	-0.03	0.03	0.01	0.79	0.25
28年目	H 53	53	0.98984	0.99287	1.00196	0.99137	0.3083	90.0	0.47	0.05	0.22	0.74	0.06	0.00	-0.03	0.03	0.01	0.78	0.24
29年目	H 54	54	0.98973	0.99282	1.00196	0.99129	0.2965	90.0	0.47	0.05	0.22	0.74	0.06	0.00	-0.03	0.03	0.01	0.78	0.23
30年目	H 55	55	0.98963	0.99277	1.00196	0.99122	0.2851	90.0	0.46	0.05	0.22	0.73	0.06	0.00	-0.03	0.03	0.01	0.77	0.22
31年目	H 56	56	0.98952	0.99272	1.00195	0.99114	0.2741	90.0	0.46	0.04	0.22	0.73	0.06	0.00	-0.03	0.03	0.01	0.76	0.21
32年目	H 57	57	0.98941	0.99266	1.00195	0.99106	0.2636	90.0	0.45	0.04	0.23	0.72	0.06	0.00	-0.03	0.03	0.01	0.76	0.20
33年目	H 58	58	0.98929	0.99261	1.00194	0.99098	0.2534	90.0	0.45	0.04	0.23	0.72	0.06	0.00	-0.04	0.03	0.01	0.75	0.19
34年目	H 59	59	0.98918	0.99255	1.00194	0.99090	0.2437	90.0	0.44	0.04	0.23	0.71	0.06	0.00	-0.04	0.03	0.01	0.75	0.18
35年目	H 60	60	0.98906	0.99250	1.00194	0.99081	0.2343	90.0	0.44	0.04	0.23	0.71	0.06	0.00	-0.04	0.03	0.01	0.74	0.17
36年目	H 61	61	0.98894	0.99244	1.00193	0.99073	0.2253	90.0	0.43	0.04	0.23	0.70	0.06	0.00	-0.04	0.03	0.01	0.74	0.17
37年目	H 62	62	0.98883	0.99238	1.00193	0.99064	0.2166	90.0	0.43	0.04	0.23	0.70	0.06	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.73	0.16
38年目	H 63	63	0.98870	0.99233	1.00193	0.99056	0.2083	90.0	0.42	0.04	0.23	0.69	0.06	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.73	0.15
39年目	H 64	64	0.98859	0.99228	1.00193	0.99048	0.2003	90.0	0.42	0.04	0.23	0.69	0.06	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.72	0.14
40年目	H 65	65	0.98848	0.99223	1.00193	0.99040	0.1926	90.0	0.41	0.04	0.23	0.68	0.06	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.71	0.14
41年目	H 66	66	0.98837	0.99218	1.00193	0.99032	0.1852	90.0	0.41	0.04	0.23	0.68	0.06	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.71	0.13
42年目	H 67	67	0.98826	0.99213	1.00193	0.99024	0.1780	90.0	0.40	0.04	0.23	0.67	0.05	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.70	0.13
43年目	H 68	68	0.98815	0.99208	1.00193	0.99016	0.1712	90.0	0.40	0.04	0.23	0.67	0.05	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.70	0.12
44年目	H 69	69	0.98804	0.99203	1.00193	0.99008	0.1646	90.0	0.39	0.04	0.23	0.66	0.11	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.69	0.11
45年目	H 70	70	0.98793	0.99198	1.00193	0.99000	0.1583	90.0	0.39	0.04	0.23	0.66	0.10	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.69	0.11
46年目	H 71	71	0.98782	0.99193	1.00193	0.98992	0.1522	90.0	0.38	0.04	0.23	0.66	0.10	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.68	0.10
47年目	H 72	72	0.98771	0.99188	1.00193	0.98984	0.1463	90.0	0.38	0.04	0.23	0.65	0.10	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.68	0.10
48年目	H 73	73	0.98760	0.99183	1.00193	0.98976	0.1407	90.0	0.37	0.04	0.23	0.65	0.09	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.67	0.09
49年目	H 74	74	0.98749	0.99178	1.00193	0.98968	0.1353	90.0	0.37	0.04	0.23	0.64	0.09	0.00	-0.04	0.02	0.01	0.67	0.09
合 計									24.00	38.48	12.04	2.44	16.88	3.26	-1.87	1.52	0.68	40.51	17.79

路線名	箇所名	車線数	延長
西高岡拡幅	高岡市四屋～高岡市立野	4	5.1

■事業費内訳

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					7,459	
	改良費				4,765	
		土工	m ³	226,900	888	切土(157,500m ³)、盛土(69,400m ³)
		擁壁工	式	1	507	L型擁壁
		函渠工	式	1	1,749	
		排水工	式	1	954	
		中央分離帯工	m	1	24	
		休憩施設	式	1	644	
	橋梁費				1,093	
		100m以上	m	0	0	
		100m未満	m	125	1,093	4橋(上下線)
	舗装費				704	
		車道舗装	m ²	48,480	620	
		歩道舗装	m ²	24,840	83	
	付帯施設費				897	標識工、電気設備工、撤去工等
		交通管理施設工	式	1	897	
②用地及補償費					12,695	
	用地費		m ²	71,600	7,631	
		宅地	m ²	71,600	7,631	
	補償費		式	1	5,064	
③間接経費			式	1	3,346	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費
全体事業費					23,500	

路線名	箇所名	車線数	延長
西高岡拡幅	高岡市四屋～高岡市立野	4	5.1

■事業費内訳(残事業費)

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					485	
改良費					229	
土工			m3	2,600	10	切土(2,000m3)、盛土(600m3)
擁壁工			式	1	4	L型擁壁
函渠工			式	1	180	本線切り回し含む
排水工			式	1	31	
中央分離帯工			式	1	5	
橋梁費					171	
100m以上			m	0	0	
100m未満			m	45	171	1橋、一部施工済み
舗装費					46	
車道舗装			m ²	3,800	40	
歩道舗装			m ²	1,800	6	
付帯施設費					39	防護柵等
交通管理施設工			式	1	39	
②用地及補償費					20	
用地費			m ²	0	0	
宅地			m ²	0	0	
補償費			式	1	20	
③間接経費			式	1	84	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費
残事業費					589	

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道8号	西高岡拡幅	4	5.1km

■維持管理費内訳

区分	単位	数量	金額 (百万円/年)	備考
維持費	km	5.1	33	巡回、清掃、除草、除雪等
修繕費	式	1	97	路面補修、構造物の点検・補修等
維持管理費合計			130	

【単価等について】

○維持管理費は、当該道路周辺地域における直轄国道の維持管理等に要する実績経費に基づき算出。